

パブリックコメントの結果及び対応

1. パブリックコメントの概要

○実施期間：平成 28 年 1 月 18 日（月）から平成 28 年 2 月 17 日（水）

○実施方法：弥富市 HP、回覧への掲載、弥富市役所危機管理課・十四山支所・鍋田支所で閲覧

※意見を提出できる方：市内に住所を有する方、市内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体、市内に存する事務所または事業所に勤務する方、市内に存する学校に在学する方、案件に利害関係のある方

○意見者数：3 名（65 歳以上男性 2 名、75 歳以上男性 1 名）

○回答方法：弥富市 HP で結果を公表

2. パブリックコメントの結果と対応

	意見概要	対応・回答案
1	・収益を確保する事が、持続可能な地域公共交通であり、弥富駅（近鉄北口限定）⇄海南病院など、核となる地点を絞り込み、短距離のバス交通を多くし、乗客の満足度を高めるべき	・現在、総合福祉センターやイオンタウン、近鉄弥富駅や市役所、海南病院を含むエリアを重点的に運行する拠点集積エリアとして位置づけ、全ルートが乗り入れ、他の地域よりも高い運行頻度を確保しており、今後もこのエリアに関しては重点的な運行が必要だと考えています。 ・核となる地点を絞り込んだ短距離運行バスの運行に関しては、現在のバス車両の保有台数（5 台）の中での対応が難しいため、今後の課題として、実施事業「地域特性や利用特性に応じた運行改善」の中で検討したいと考えています。（P82）
2	・コミュニティバス以外に、弥富駅・佐古木駅や市の施設等の拠点から役所・スーパー・病院行き等のシャトルバスをルートバスを走らせてはどうか。 ・バスに乗る目的別にシャトルバスとルートバスを使い分けてはどうか。 →ルートバスは弥富駅・佐古木駅などを最終目的地（拠点）とし利用されるので、交通安全の問題もあるがバス停を増強。 →シャトルバスは、民間とタイアップして、買出し（イオンタウンなど）と通院（海南病院など）も意識するとともに、公共施設をつなぐルートも検討。	・新たなバス路線の運行に関しては、現在のバス車両の保有台数（5 台）の中での対応が難しいため、今後の課題として、実施事業「地域特性や利用特性に応じた運行改善」の中で検討したいと考えています。（P82） ・実施事業「主要施設へのきんちゃんバス情報揭示」の中で、特に近鉄弥富駅等の拠点において、バス利用者がどのバスを利用すれば主要な目的地に行きやすいかが分かりやすいよう、揭示する情報の内容も検討したいと考えています。（P91）
3	・高齢者等の多くが診療所を利用しており、現在の巡回方式で対応出来なくなっている。現在のバスを利用している人の多くは自分の生活リズムにあっているごく少数の人であり、予約等を含む行先に直行できる方式の研究と、「何のために今バスを利用したいか」の希望調査を市として行うべき。	・弥富市地域公共交通活性化協議会においても、平成 24～25 年度にかけて予約制（デマンド方式）による運行を検討しましたが、新たに車両を導入する必要があることや、運行費用が増加すること、予約制による利便性の低下から利用者が減少する可能性が高い等の理由により導入が見送られた経緯があります。 ・毎年モニタリング調査を実施していきますので、その中で意向を把握していきます。

	意見概要	対応・回答案
4	・ P64：現在のタクシーの利用は、介護認定による高齢者タクシーは年 24 枚、他人の介護が必要だったり、高齢等で歩行困難、自転車や自動車に乗れなくなった人が年 24 枚というのは少ない。介護認定がなくても必要な人には高齢者タクシーの認定を。市の東部や南部に住む移動困難な人には、バスの対応でも日常生活が脅かされている人には、割増チケットの交付をすること。	・ 高齢者等福祉タクシー料金助成事業については、その利用率が全体として 5 割に満たない状態であり、枚数については現行通りとしますが、介護予防・日常生活支援総合事業の基本チェックリスト該当者については、タクシーチケットを同数配布する予定をしております。